

全国学力・学習状況調査は、小学校6年生と中学校3年生を対象に行われる調査です。文部科学省や教育委員会が、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることが目的です。また、学校には、本調査の結果を子どもへの教育指導の充実や学習状況の改善などに役立てることが求められています。

1 国語

(1) 調査結果の概要

☆平均を大きく上回る (+5%以上) ◎平均を上回る (+5%以内) ○ほぼ平均

●平均を下回る (-5%以内) ▲平均を大きく下回る (-5%以上)

左：全国との比較 (右：静岡県との比較)

全体	言語・情報の扱い方	話す・聞く能力	書く能力	読む能力
● (●)	▲ (▲)	▲ (▲)	◎ (◎)	◎ (◎)

(2) 結果からみえる浜岡東小の子どもの特徴と今後の指導

○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にする力が身に付いています。[2]-①、②) 正答率85%以上

▲オンラインで交流する場面における相手との話し方の工夫として適切なものを選択する問題の正答率が38%と低かったです。[1]-②)

▲文中における主語と熟語との関係を的確に捉える児童が少なかったです。[3]-①) 正答率51%

▲目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表す問題に答えられた児童が半数に留まりました。[2]-②) 正答率57%

▲ [1]-②) 村木さんと和田さんの会話から…
村木さん：よく分かりました。おもしろそうですね。
和田さん：そうなんです。先月の読書イベントでは、
(中略)これが、実際に出题されたクイズ
が書かれたカードです。私も参加・・・(略)
問：和田さんの話し方の工夫として適切なものは？

【東小児童の誤答例】

1. 相手が興味を持っていることに気づき、相手の言葉を引用して話した。
「おもしろそうですね。」の反応から相手が興味をもっていることに気付いたことを捉えることはできていましたが、用意していた実物を示しながら話したことを捉えることができていませんでした。「引用」という言葉をきちんと理解する必要があります。

▲ [2]-②) 【高山さんの文章】の続きを【高山さんの取材メモ】を基に書く。(複数の情報を基にして、示された条件に合わせて書く。)

- <条件> ①「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書く。
②【高山さんの取材メモ】の言葉や文を取り上げて書く。
③60字以上100字以内で書く。

【東小児童の誤答例】

【取材メモ】が箇条書きで書かれており、比較的分かりやすかったことから適切に言葉や文を取り上げることができていました。しかし、文全体から「たてわり遊び」について理解し、よさを自分なりに考え適切に表すことはできていませんでした。

▲ [3]-①) はらっぱじゅうのもやが(1)、ひかりの雲にかわり、そして(2)、そのまんなかで、オニグモじいさんの巣は(3)、かぞえきれないほどたくさんのお日さまでできているように、きらきら、きらきらと、まぶしく(4)かがやいています。
問：「かがやいています」の主語は？

【東小児童の誤答例】もやが、まぶしく
文章の内容を理解するには、語句相互の関係に気を付けて、文の組み立てられ方を理解することが重要です。主語を「～は」「～が」など形式的に判別するのではなく、文の構成を理解した上で、主語と述語との関係を捉えることが大切です。

今後は…

※本校では、子ども一人ひとりの困り事や学力の違い、そして特性に合わせて授業を展開する「自由進度学習」を一部の授業で取り入れています。自分に合った内容やペースで、周囲の友達や先生などに関わりながら学びを深めていきます。今回の調査で、相手に伝えたい気持ちがあっても的確に伝えられない、思いを適切に表現する力を伸ばしていくことが必要であることが明確となりました。今後、自由進度学習等を含めて、自分の考えをもてるように支援したり、グループワークで友達との意見交流する場を取り入れたりしていきます。また、委員会活動や会社活動などの生活場面でも、自分たちで学校(学級)を創るという意識をもたせて、友達と関わりながら教育活動を行えるように教師が意図的に仕掛けるなど、活動を通して高い表現力を育成することを通して主体性に活動に取り組む態度を育てていきます。

※文を書いたり読んだりすることが苦手な子、漢字などの言語分野を覚えることが苦手な子等、本校児童は一人ひとり課題が異なります。東小の家庭学習は、自分にとって必要な学びを考えて取り組んでいます。自分が学習する内容や方法などを担任と再度確認し、基礎学力の向上や主体的な学びを目指していきます。

2 算数

(1) 調査結果の概要

☆平均を大きく上回る (+5%以上) ◎平均を上回る (+5%以内) ○ほぼ平均

●平均を下回る (-5%以内) ▲平均を大きく下回る (-5%以上)

左：全国との比較 (右：静岡県との比較)

全体	数と計算	図形	測定・変化と関係	データの活用
○ (◎)	● (◎)	◎ (◎)	▲ (▲)	◎ (◎)

(2) 結果からみえる浜岡東小の子どもの特徴と今後の指導

○円グラフや折れ線グラフの特徴を理解し、データを分類整理する問題がよくできていました。

〔5〕(1) 正答率 88% 〔5〕(2) 正答率 82%

○数量の関係を、□を用いた式に表す問題の正答率が 90%と高かったです。〔1〕(2)

▲問題場面の数量の関係を捉え、式に表す問題では正答率が 50%を下回っていました〔1〕(1)

▲球の直径の長ささと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す問題の正答率が 42%でした。さらに無回答率が 15%と高かったです。〔3〕(3)

▲道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題の正答率が 32%でした〔4〕(3)

〔1〕(1) ゆうまさんは、折り紙を 72 枚持っています。ゆうまさんが持っている折り紙は、こはるさんが持っている折り紙より 28 枚少ないです。こはるさんが持っている折り紙の枚数を求める式

【正答】 $72 + 28$

【東小児童の誤答例】 $72 - 28$

ここでは、二人が持っている折り紙の枚数の関係を図などに表し、こはるさんが持っている折り紙が、ゆうまさんの折り紙より 28 枚多いことを捉える必要があります。「少ない」「～より」という言葉から、誤って減法を用いていると考えられます。数量の関係をつかみにくい問題ではありますが、問題の文脈に沿って図などに表し、数量の関係を捉えれば解くことができます。

〔3〕(3) 直径 22cm の球の形をしたボール



問：ボールがぴったり入る立方体の箱の体積を求める式を考えよう。

【正答】 $22 \times 22 \times 22$

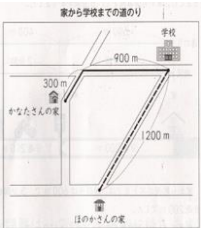
【東小児童の誤答例】

球であり、また円の要素が含まれていることから 3.14 をかけたり、わったりした式が目立ちました。また、考えが思い付かず無答も多かったです。

「球」を意識したことはよかったです。今回は球がぴったり入る立方体の形をした箱との関係が大切で、一辺の長さがボールの直径の長さと同じになることを捉えることが必要である。図形を構成する要素に着目するなど、立体図形を多面的に見る力を養う必要があります。

今後は…

〔4〕(3) 家から学校まで移動する時間は、かなたさんは 20 分間、ほのかさんは 24 分間です。どちらがより速く歩くか、言葉や数を使って書く。



【正答例】かなたさんもほのかさんも家から学校までの道のりは 1200m です。かかった時間は、かなたさんの方が短く、道のりが同じとき、時間が短いほど速さが速いので、かなたさんの方が速いです。

【東小児童の誤答例】

図から、二人の道のりが同じことには気づきましたが、それとかかった時間を比べて結論を出すところまでは辿り着けていませんでした。

異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする力を身に付けていかなければなりません。

※問題を解決するために、示された場面を解釈し、必要な数量やその関係を捉え、数学的に表現・処理できるようにすることが大切です。国語同様に算数科でも自由進度学習を取り入れており、既習の知識や技能を活用しながら、児童自らが解決の見通しをもって必要な情報を選び出し、考えたり説明したりできるような活動を取り入れていきます。

※課題が見られたのは、記述形式で回答する問題でした。問題に対して、論を立てて正確に自分の思いを表現することは子どもにとってハードルが高いようでした。授業中に考えを整理したり友達と自分の考えを比較したりして、授業の最後に気付いたことや、自分の考えの変容(なぜ、どのように変容したか)などに着目して、振り返りをしていきます。